

イタイイタイ病 今も続く被害地域住民の 活動だより

vol.2



発行 一般財団法人
神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
イタイイタイ病対策協議会
神通川流域鉱害対策連絡協議会

発行日 令和7年6月2日

富山市婦中町萩島 684 (清流会館)
TEL 076-465-4811



1 手直し工事の要望674ヶ所 想定を超える申請に県も新たな提案

新保・婦中土改	凹凸補修	469 箇所	畦畔漏水	205 箇所
---------	------	--------	------	--------

春耕作を終えて令和7年6月に追加調査を受付

この申請数は、農家の方が今まで不具合を我慢をして農作業してきた不満と期待の表れです。6月末までに2回目の追加要望の申請を受付け、現地確認を行ったうえで秋以降に凹凸補修面積、畦畔漏水距離が公表され、令和9年度からの補修工事に取り掛ける予定です。

県農村整備課では今回の申請数を完了するには、従来の施工では相当の工期を有すること、施工効率が悪く工事費がかさむこと、経年劣化で対象工事以外の補修工事が発生していることなどから、新しい対応方法を検討する時期に来ているのではないかと考えを持っています。

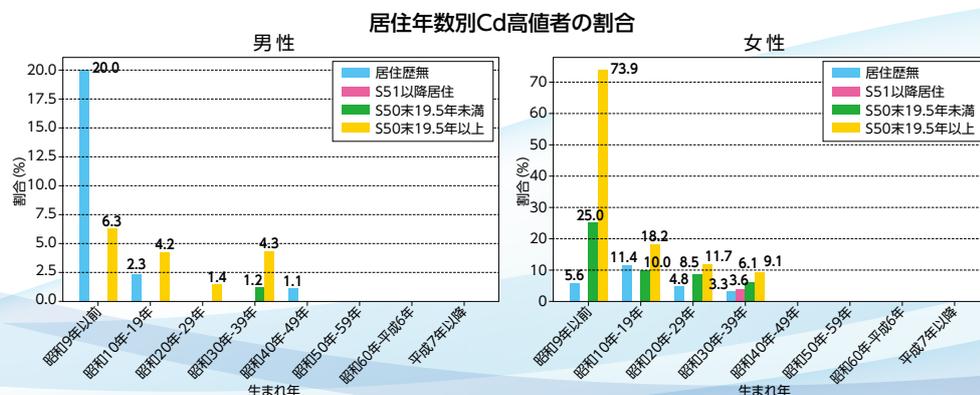


2 被害地域住民の健康を守る活動

● 新たな精密検査対象者 直近10年で最多23名の判定

今年度の住民健康調査対象者は998名でした。対象者のうち355名の方が尿検査の一次検診を受診されました。その結果23名が新たに精密検査の対象者に判定されました。県が行っているカドミウム汚染地域での住民健康調査は皆さんの健康を守る大切な検査です。是非、案内が来たら受診の手続きを申請願います。また、精密検査対象の方は三井金属鉱業との健康管理支援一時金の対象者となり、60万円の支給を受けることができますので、対応がわからない場合は清流会館(465-4811)までお問い合わせ下さい。

● 昭和30-40年代の生まれの中にも尿中カドミウムの高い者 住民健康調査の対象者の引下げを環境省へ要請



尿中Cd高値者は、いずれの年代でも、土壌汚染改良工事対象地域での居住歴が昭和50年以前に20年以上居住した者(黄色)に多いが、土壌汚染改良工事対象地区以外の居住者(水色)や昭和50年以前に20年未満居住した者(緑)、昭和51年以降の工事対象地区の居住者にも散見された。

金沢医科大学櫻井教授による「神通川カドミウム汚染流域の土壌汚染改善後のカドミウム体内蓄積量と健康影響」の研究によると、昭和40年代生まれの人にも尿中カドミウムが高い人がいるので、住民健康調査の対象年齢を引下げて行った方が良いのではと提案されました。この結果を踏まえ今年の環境省交渉では対象年齢引き下げを強く要請してきました。

被害地域の環境を守る活動

● 神岡鉱業と初めての勉強会

「緊張感ある信頼関係」から加害者・被害者の立場を超え「協働」を掲げ、両者で環境改善に取り組む勉強会が初めて開催されました。神岡鉱業から佐々木保安全管理室長、高橋管理部長外他1名が出席し、被団協からの新たな要望については、この勉強会で協議を重ね改善を目指していきます。



R7.1.28 神岡鉱業との意見交換会 清流会館



R7.5.25 清流会館

● 発生源対策会議を開き、事前学習

専門立入調査の前に発生源対策会議が開かれました。会議では協力科学者、弁護士から今年度の活動について報告が行われ、特に昨年からの協力科学者に就任いただいた富山県立大学の中澤先生からも報告があり、活動にお力添えをいただきました。

● 専門立入調査（5月26、27日）住民の目で環境安全最優先を確認
協力科学者4名、弁護士2名、住民代表の専門委員13名、事務局2名の総勢21名による立入調査が2日間にわたり実施されました。鹿間工場、六郎工場、堆積場、休廃坑等を神岡鉱業の社員による説明と年次報告書に基づいて詳細な調査を行い、問題の指摘、改善を求めてきました。なお、指摘した課題は意見交換を行い、有効な手立てを互いに考え、協議を重ね改善していくことになります。



R7.5.26,27 専門立入調査 神岡鉱業

イタイイタイ病を風化させないための活動



保管資料のアーカイブ化

● 保管資料を環境省職員が視察

環境省の委託研究事業の助成を受けて清流会館で保管している資料の整理、保存を行っています。この事業は3年間で作業を終える予定で開始しましたが、資料が膨大で、劣化が進み、また資料の中抜けや重複などにより期間内での完了が難しくなりました。この状況を堀内環境省保健業務室長に、さらに3年間延長して、全ての資料の保存、整理ができるよう要望しました。

● 県会議員などから活動への心強い応援

2012年（平成24年）以来、10数年ぶりに県会議員、イ病弁護団、関係団体の皆様との総括会議を令和6年11月28日富山県民会館で開催しました。会議では被団協が行っている活動の報告や多岐にわたる課題や要望について説明しました。その後、議員との質疑において活発な意見交換を行い、当協議会への協力を要請いたしました。当日は中川県議、火爪県議、奥野県議、菅沢県議、佐藤県議、立村県議、婦中・新保土改理事長、あおば農協組合長・富山市農協組合長、イ病弁護団、被団協役員総勢30名の参加をいただきました。



令和6年被団協総括会議 R6年11月28日 県民会館

● 第7回清流環境作文コンクール表彰式

会場には受賞者やその家族ら100名が出席して行われました。表彰式では最優秀賞9名、優秀賞13名、学校賞・学級賞4校に賞状、記念盾、副賞が江添被団協代表より授与されました。来賓の富山県知事代理・有賀厚生部長、富山市長代理・東環境保全課長から祝辞をいただきました。表彰式終了後、歴史賞最優秀賞の藤井健輔さん（富山市立宮野小学校）、体験賞最優秀賞の金川実優さん（富山市立堀川小学校）、科学賞最優秀賞の大浦深結さん（高岡市立野村小学校）の3名による意見交流会では司会者の質問に素直な自分の意見を発表されていました。今年度は県内42校から1092点の応募があり45点が受賞されました。受賞された皆さんの作文はホームページに掲載されています。受賞作品は冊子にまとめ県内すべての小学校、図書館に配布されます。



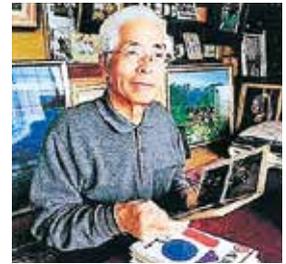
◀ QRコードから今年度受賞作品をご覧になることができます。



R7.2.22 第7回清流環境作文コンクール イタイイタイ病資料館

● 中坪さん語り部に

認定患者家族の中坪勇成さんが、イ病資料館で語り部として活動されることに決まりました。令和6年8月にお亡くなりになったお母様（認定患者）を見守った家族として、イ病資料館に来館する小学生に直接思いを伝えることが、風化防止の一助になればとの思いを語られています。



語り部 中坪勇成さん



R7.4.5 柳家さん生師匠
オーバードホール中ホール

● 「町医者 萩野昇」を落語で語る

令和7年4月5日、富山市出身の落語家・柳家さん生さんがイタイイタイ病の原因究明や治療に尽力された萩野昇先生の生きざまを創作落語として発表されました。会場の約300人は、さん生さんの表情豊かな語り口に引き込まれ、萩野先生が苦勞されながらも、何とか住民を助けようとする思いが会場の皆さんにも伝わったひと時でした。さん生さんは「富山で生まれ育った人間として素通りできないテーマなので公害を継承する新たな形になればと思います。今後は県内外での公演も計画している」と語られていました。

● 日本で一番古い公害資料館「清流会館」を紹介

公害資料館ネットワークの皆さんが各地の公害資料館をめぐり、その魅力を紹介しています。今回は2025年1月に清流会館・県立イ病資料館の展示室の動画を撮影に来館されました。清流会館は昭和51年（1976年）5月に竣工して来年（令和8年）で50年を迎えます。清流会館の展示室を見ていただき、今までの住民の皆様の活動を改めて知っていただければと思います。



▲ QRコードから動画をご覧になることができます。

● 熊本・水俣病の今を視察

第54回公害弁連総会が熊本市で開催されました。総会にはイタイイタイ病対策協議会から4名、イ病弁護団から青島弁護士が参加しました。今も水俣では裁判が続いています。水俣では住民運動の歴史を残す「水俣市立水俣病資料館」「水俣病歴史考証館『相思社』」の両資料館を視察し、資料の保管や展示の内容、方法など清流会館の参考となりました。



左は水俣病不知火患者会中山事務局長と司法修習生慰霊碑横の鐘を打つ

清流によせて

とわ ～神通川に永久の清流を～



金沢大学名誉教授
高橋 光信

プロフィール

婦中町添島の出身。高木良信さんから発生源対策への協力要請があり以後、協力科学者として28年にわたり住民活動を支え、今も発生源対策の協力科学者リーダーとして活躍されています。

神通川下流域を中心に発生したイタイイタイ病や土壌汚染の事の起こりは、神岡鉱山からの湧水、工場からの漏液、原料鉱石から亜鉛などを抽出した残渣など、カドミウム (Cd) を含んだ廃棄物を三井金属鉱業(株)神岡事業所が十分に処理や管理をしないまま、神通川支流の高原川に流出させたことにあります。発生源対策は遅きに失しましたが、1972年のイ病裁判全面勝訴で公害防止協定による立入調査権を獲得し、様々な発生源対策が本格的にスタートしました。その結果、神通川の年平均Cd濃度は、1999年には0.07 $\mu\text{g}/\text{L}$ と自然界レベルまで減少しました。2000年以降も休廃坑からの湧水の清濁分離、六郎工場バリア井戸からの揚水による漏液回収、濁水のアルカリ処理による無害化、むき出しになった山肌の植栽などを継続しており、2023年には0.06 $\mu\text{g}/\text{L}$ と更に低下しています。この値は、汚染されていない高原川上流の浅井田ダム湖のCd濃度(0.05 $\mu\text{g}/\text{L}$)に匹敵し、「神通川に清流が戻った。Cdによって再汚染されることはない。」と胸を張って云えるまでになりました。このような状況下、Cd以外の有害物質についても更なる削減を追求すべきかどうか検討していましたが、折しも第52回全体立入調査において、「7排水口でCdは1 $\mu\text{g}/\text{L}$ 、その他の有害物質は環境基準を目指して努力する」旨、神岡鉱業(株)岡田社長から回答がありました。『環境安全最優先』を掲げる神岡鉱業(株)の真価が問われるところですが、技術的にかなりハードルが高いのも事実です。単なる努力目標に終わらせることなく、何としても成し遂げて欲しいものです。

綺麗な水を湛えた神通川が戻ったからといって発生源対策を継続して実施しなければ、清流は維持できません。神通川上流には休廃坑を始めとした幾つもの発生源が歴然と存在し、決してなくならないからです。神通川が清流であり続けるために、これからの発生源対策がどうあるべきか、皆さんと共に真剣に考える時期に来ています。

主な活動記録 (令和6年11月～令和7年5月)

11月

- 11.8 環境省へイ病資料館バス送迎経費の追加要請
- 11.12 東大SK立入調査
- 11.14 被害地域住民の活動だより第1号発行
- 11.19 北電水路立入調査
- 11.23～24 発生源対策総括会議
- 11.28 被団協総括会議 県民会館 県議6名 弁護士9名外総数30名

12月

- 12.9 三井と健康管理支援の合同審査会
- 12.13 環境省職員25名研修視察で来館
- 12.15 第10回公害資料館ネットワーク東京大会

1月

- 1.25 公害資料館ネットワーク 展示室動画撮影
- 1.28 神岡鉱業(株)と第1回打合せ会(勉強会)

2月

- 2.4 環境省保健業務室長来館 展示室、資料室の視察
- 2.11 公明党岡本政調会長へ資料保管、復元手直し工事について要望
- 2.22 第7回清流環境作文コンクール表彰式
- 2.23 日本教職員組合95名来館

3月

- 3.18 イ病要観察患者死亡
- 3.24 神岡鉱業と発生源対策の予算交渉
- 3.25 イタイイタイ病対策協議会第60回総会
- 3.30 神通川流域鉱害対策連絡協議会総会

4月

- 4.1 住民健康調査の対象者年齢引下に関する打合せ 青島恵子先生他5名
- 4.5 柳家さん生「町医者 萩野昇」の落語会
- 4.30 第12回被団協定時評議会

5月

- 5.13 富山市宮口教育長へ清流環境作文コンクールへの協力依頼
- 5.14 高岡市近藤教育長へ清流環境作文コンクールへの協力依頼
- 5.17～18 公害弁連総会(熊本)、水保病関連展示施設視察
- 5.25 発生源対策会議
- 5.26～27 神岡鉱業への専門立入調査
- 5.29 イ病弁護団会議

編集後記

住民が活動し続けるモチベーションは一体何であろうか。三井への恨みだろうか、富山県の企業寄りの姿勢だろうか、世間の無関心だろうか。こんなネガティブなことが活動を継続する気力となることは無い。気力の源はこの地で生きる者の使命感で揺り動かされている魂ではないだろうか。

機関紙に掲載される活動はほんの一步かもしれませんが、継続すれば間違いなく道は続いていくことを確信しています。